

ご卒業・ご進級おめでとうございます。例年とは異なる環境のなかでお子さんも保護者の皆様もご苦労の多い一年になったのではないのでしょうか。ご家庭によってはお子さんと関わる時間が増え、良い面もあれば、大変だった面もあったのではないかと思えます。

ここで、家庭での学習に関する親の関わり方についての近年のある研究結果をご紹介します。

小学校低学年の子ども学習時間を増やすために、父母が「勉強したかを確認している」「勉強を横について見ている」「勉強をする時間を決めて守らせている」「勉強するように言っている」の四種類の関わりのがれが効果的かを測りました。

その結果「勉強するように言う」のはあまり効果がなく、むしろ場合によっては逆効果になることが分かりました。最も学習時間の増加に寄与した関わりは、母親は「勉強をする時間を決めて守らせている」こと、父親は「勉強を横について見ている」ことでした。また男の子なら父親が、

## 学生相談室

だより **112**

カウンセラー 横尾奈央子

女の子なら母親が関わることの効果が高いことも分かりました。これは小学生とその父母を対象としているので大学生の保護者の方にはそのまま当てはめて考えることはできません。しかし、誰がどのように関わるかがお子さんの成長にとって効果的か、振り返ってみるものの重要性を示唆しているように思われます。

また、同じようにお子さんのためを思った行動でも少し内容を変えるだけでまったく異なる結果を招くということ、大学生に対しても当てはまることもあるかもしれません。

ご家族で過ごすことの多いこのご時世、もしお子さんとの関係がしつくりこないと感じる다면、ご自身の関わり方を振り返ってみてはいかがでしょうか。関わり方の問題ではないことも多々あるのですが、もっと効果的な関わり方やよりよい関係を築いていくヒントが見つかるかもしれません。

そんな相談にもぜひ学生相談室を使ってもらえたら幸いです。